

2015年度

M 世界史問題

注 意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は12ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号はⅠ～Ⅲとなっています。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1. マークは、下記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2. 1つのマーク欄には1つしかマークしてはいけません。
3. 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきらずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：

A	1	2	3	4	5
	○	○	●	○	○

(3と解答する場合)

I. 次の文を読み、下記の設問A～Cに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

15世紀、ポルトガルやスペインを中心に、西欧人による積極的な新航路の開拓や未知の土地への探検¹⁾が行われた。1492年、スペイン女王²⁾（イ）の援助を受けたコロンブスがアジアへの航路を探る中で、バハマ諸島のサンサルバドル島に到達したが、これは西欧世界が「新大陸」に本格的に目を向ける契機となった。

「新大陸」には西欧各国が進出し植民地が建設され、中南米ではスペインやポルトガルが領土を大きく拡大させていった。一方、北米東部ではオランダ³⁾、イギリス⁴⁾、フランスなどが植民地を開き勢力を競っていた。1664年にイギリスはオランダ領の（ロ）を占領し、ニューヨークと改名した。さらに、七年戦争と並行して北米を舞台に戦われた（ハ）戦争でイギリスがフランスに勝利すると、この地域でのイギリスの優位はゆるぎのないものとなった。

この戦争の後、イギリスは戦争で悪化した財政の再建などの目的で、1765年に（ニ）法をうちだすなど植民地への課税を強化した。しかし、アメリカにおける植民地に対する支配を強化するこのような政策は、植民地側の反対を引き起こし、特に（ニ）法⁵⁾に対しては「代表なくして課税なし」という主張がかかげられ、強い抗議がなされることとなった。

このような対立関係のなか、1775年、植民地側とイギリス本国との間で武力衝突が発生し、両者はついに戦争に突入した。1776年7月4日⁶⁾、植民地側から独立宣言⁷⁾がなされ、1777年にはサラトガの戦いでアメリカがイギリスを破った。この勝利を契機にアメリカはフランスとの同盟を結ぶことに成功し、1778年、フランスもイギリスに宣戦⁸⁾した。アメリカの独立をめぐる争いは1781年に（ホ）の戦いでイギリスが敗北したことで決着した。その後、1783年のパリ条約でイギリスはアメリカの独立⁹⁾を承認し、ミシシッピ川以東のルイジアナをアメリカに割譲することとなった。このアメリカの独立は、ラテンアメリカ諸国の独立にも大きな影響を与えた。1804年にはくあ>がフランスから独立し、それ以降も多くのラテンアメリカの国々が独立を果たすこととなった。

独立戦争後、アメリカの北部では商工業が発展したのに対し、南部では奴隷を用いた農業が産業の中心となったが、両地域は貿易政策や国の統治のあり方を巡って対立を深めた。奴隷制をめぐる両地域は鋭く対立し、1820年のくい>協定では北緯36度30分以北¹¹⁾には奴隷州を認めないことが定められた。このような対立を抱えながらも、独立後のアメリカは積極的にその領土を拡大させていった。領土の拡大が西部開拓をうながした結果、1830年にはアメリカ先住民に対する強制移住法が成立し、先住民はミシシッピ川以西に追¹²⁾

放されることとなった。また、1836年にメキシコからの独立を宣言した（ヘ）を1845年に州として併合した。

対立が続いていた北部と南部の緊張関係はその後も解消せず、1861年、南部諸州はアメリカ連合国を結成し、南北戦争に至った。南北戦争後、アメリカの工業化は急速に進んだ。また、19世紀末になると、¹³⁾アメリカは積極的に海外進出を行うようになった。くう>大統領の時代にはアメリカ＝スペイン戦争に勝利し、フィリピン等を獲得した。その後、第一次世界大戦、第二次世界大戦という2度にわたる世界大戦を通じ、アメリカの影響力¹⁴⁾はさらに拡大していくこととなった。¹⁵⁾

A. 文中の空所(イ)～(ヘ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の空所<あ>～<う>にあてはまる適当な語句を、それぞれ対応する次のa～dから1つずつ選び、その記号をマークせよ。

- | | | |
|-----|-----------|-----------------|
| <あ> | a. アルゼンチン | b. ハイチ |
| | c. ブラジル | d. ペルー |
| <い> | a. オレゴン | b. カンザス |
| | c. ネブラスカ | d. ミズーリ |
| <う> | a. クーリッジ | b. セオドア＝ローズヴェルト |
| | c. トルーマン | d. マッキンリー |

C. 文中の下線部1)～15)にそれぞれ対応する次の問1～15に答えよ。

1. 1494年にスペインとポルトガルの間で結ばれた海外領土を分割するための条約の名を、次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。

a. サラゴサ条約	b. トルデシリャス条約
c. メシュエン条約	d. ロカルノ条約
2. ポルトガルの航海者であったバルトロメウ＝ディアスが到達した場所を、次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。

a. アゾレス諸島	b. 喜望峰
c. パナマ地峡	d. モルッカ諸島
3. メキシコ高原に存在したアステカ王国の都の名をしるせ。

4. 1533年にスペイン人のピサロによって滅ぼされたアンデス地域に存在した帝国の名をしるせ。
5. イギリスは北米以外にも多くの地域に進出していたが、インドでは植民地化を進める中で従来の領主や地主の土地所有権を認め、彼らを納税の責任者として地税を納めさせる制度を主にインド北東部で実施した。この制度の名をしるせ。
6. この年に刊行された『諸国民の富』の著者で「経済学の父」とも呼ばれる人物の名をしるせ。
7. 独立の正当性を主張し、アメリカ独立の気運を高めた『コモン=センス』の著者の名をしるせ。
8. このときのフランス国王の名をしるせ。
9. イギリスはアメリカ独立戦争には敗北したが、その後も世界の様々な地域へ積極的に進出しようとしていた。イギリスが中国に派遣したマカートニーは1793年に貿易の拡大を求めて清朝の皇帝に謁見した。この皇帝の名を、次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 嘉慶帝 b. 咸豊帝 c. 乾隆帝 d. 順治帝
10. ラテンアメリカの国々が独立を勝ち取ることができた背景には、独立を指導した人物の存在もあった。アルゼンチンに生まれ、アルゼンチン、チリ、ペルーの独立運動で指導的な役割を果たした人物の名を、次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。
- a. サン=マルティン b. シモン=ボリバル
- c. トゥサン=ルヴェルチュール d. トゥパク=アマル
11. これに関する次の問 i・ii に答えよ。
- i. 奴隷制に反対する世論を高めた『アンクル=トムの小屋』の作者の名をしるせ。
- ii. 1820年代以降、アメリカで解放された奴隷による移住が開始され、1847年に独立を果たしたアフリカ西部に位置する国の名を、次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。
- a. カメルーン b. ギニア
- c. ナイジェリア d. リベリア
12. この年以降、オランダ領のジャワ島では強制栽培制度が実施され、サトウキビや藍などを強制的に農民に栽培させた。この制度を導入した当時のオランダ領東インド総督の名をしるせ。

13. この戦争中の1862年、公有地に5年間定住する等の条件を満たした開拓者に一定の土地を与えることを定めた法律が制定された。この法律の名をしるせ。
14. この大戦中の1918年に十四カ条の平和原則を発表したアメリカ大統領の名をしるせ。
15. この大戦が始まった当初、アメリカは中立の姿勢をとっていたが、1941年にはイギリスやソ連に対する軍事援助を認める法律を成立させた。この法律の名をしるせ。

II. 次の文を読み、文中の下線部1)～9)にそれぞれ対応する下記の設問1～9に答えよ。

解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

紀元前1500年頃からパンジャブ地方に侵入し始めたアーリヤ人は、火や雷などを自然神として崇拜していた。やがて前1000年頃になると、パンジャブ地方から¹⁾ガンジス川流域に移住して、稲作による農耕を定着させた。それまでの牧畜社会から定着農耕社会へと移行し、先住民と交わる中で、アーリヤ人は身分的上下観念をもつようになり、厳格な身分秩序を成立させた。²⁾

前7～前6世紀頃になると、ガンジス川流域では、城壁をもつ都市国家がいくつもつくられ、クシャトリヤやヴァイシャが社会的地位を高めた。バラモン教の³⁾祭式や聖典の権威が否定される一方で、これらの人々に支持された仏教とジャイナ教がひろまった。前4世紀にアレクサンドロス大王が西北インドに⁴⁾一時的に進出すると、そのことがインドの政治情勢に刺激を与えることとなり、インド最初の統一王朝が成立するに至った。

その後、⁵⁾2世紀頃に西北インドから南インドにかけて勢力をもったドラヴィダ系王朝は、北インド文化を⁶⁾積極的に取り入れ、南インドにバラモン教、仏教を根付かせた。また2世紀末にこの王朝は南インドの東西両海岸を統合し、インド洋交易で栄えた。

4世紀前半に誕生し、やがて北インドの大部分を支配することになる⁷⁾グプタ朝では、民間信仰や慣習を吸収して少しずつ形成されていたヒンドゥー教が確立した一方で、仏教教理の研究が盛んに行われた。しかしエフタルが侵入すると、6世紀なかばにグプタ朝は⁸⁾滅亡した。その後、ヴァルダナ朝が北インドの大半を支配するが、王朝の創始者であるハルシャ王の死後まもなく衰退し、8世紀から13世紀まで北インド各地にヒンドゥー教諸国が⁹⁾分立することになる。

1. この神々への讃歌集の名を、次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。

- a. アヴェスター b. パーブル＝ナーマ
c. マハーバーラタ d. リグ＝ヴェーダ

2. みずからを最高の身分とするバラモンの世界観にもとづく、この身分秩序の名をしるせ。

3. このうち、仏教が生まれた国の名をしるせ。

4. 紀元前後になると、仏教の中から、厳しい修行を行う出家者のみではなく、あらゆる人々の救済を求めようとする新しい運動がうまれた。この運動の名をしるせ。

5. インド世界において、この王朝が存在した時代およびその前後に起きた、以下の出来事 a～dのうち、もっとも古いものを解答欄の i に、次に古いものを ii に、以下同じように iv まで年代順にマークせよ。
- a. アショーカ王が勅令を刻んだ石柱を各地に建てた
 - b. カニシカ王が仏典の結集(けつじゅう)を行った
 - c. ガンジス川流域を支配していたナンダ朝が倒された
 - d. バクトリアのギリシア人勢力が西北インドに進出した
6. この王朝の名を、次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. サータヴァーハナ朝
 - b. チャールキヤ朝
 - c. チョーラ朝
 - d. パーンディヤ朝
7. この王朝に関する次の問 i～iv に答えよ。
- i. 北インドの大部分を統一し、この王朝の最盛期を築いた王の名をしるせ。
 - ii. 宮廷で活躍した詩人カーリダーサの代表作で、仙人の娘と王の恋を主題とした戯曲の名をしるせ。
 - iii. この王朝は、どこを首都として、どのような統治体制を特徴としたか。1 行でしるせ。
 - iv. パラモンによって使用され、この王朝下で公用語とされた言語の名をしるせ。
8. 仏教遺跡としてのこり、5～12世紀に栄え、7世紀に玄奘が学んだとされる僧院の名をしるせ。
9. 分立したヒンドゥー教諸国の王たちは、互いに反目し、みずからのクシャトリヤ身分を主張した。このことから呼称される、この時代の名をしるせ。

- Ⅲ。次の文を読み、文中の下線部 1)～10)にそれぞれ対応する下記の設問 1～10に答えよ。
解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

イスラーム世界では、『コーラン』がアラビア語で記されたため、アラビア語の言語学が1)学びの基礎となった。2)その上で、『コーラン』の解釈に関わる神学、法学が発達した。さらにイスラーム世界に関する歴史学も発展し、9～10世紀には、タバリーが年代記的世界史を編纂した。その後、文学の分野では、合理主義的悲観論と刹那主義が表現された『四行詩集 (ルバイヤート)』や、インド、イラン、アラビア、ギリシアなど各地の説話が融合された3)『千夜一夜物語 (アラビアンナイト)』が著された。4)

ギリシア語は、ローマ帝国時代以降も東地中海世界に共通する文章語であった。アレクサンドリアやアンティオキアがギリシア語の学術の中心地であったが、7世紀の5)イスラーム勢力の進出を受けて、イスラーム世界に組み込まれることになる。

イスラーム社会で6)学問が大きく発展を遂げたのは、9世紀初めにアッバース朝カリフが、バグダードにギリシア語の文献を集め、アラビア語に翻訳する研究機関を設けた後だった。7)サーマーン朝ブハラでイスラーム諸学や医学をおさめた8)イブン=シーナーが、哲学分野では、アリストテレス哲学を研究してイスラーム哲学を完成させた。9)また、アリストテレス哲学書の10)高度な注釈を行った学者も現れた。

11～13世紀頃には、トレドを中心にアラビア語文献がラテン語に翻訳された。イスラーム文明は、ギリシア文明をヨーロッパ文明へ橋渡しする重要な役割を担ったのである。

1. イスラーム教に関する次の問 i・ii に答えよ。
 - i. ムハンマドは、アッラーからの啓示に対してみずからの役割を何と自覚して教えを説いたか。その役割を漢字3字でしるせ。
 - ii. ヒジュラの際、ムハンマドらはメッカからどこへ移住したか。その都市の名をしるせ。
2. これとともにイスラーム法の根幹をなし、ムハンマドのスナナに関する伝承がまとめられた書物の名をしるせ。
3. これを著した人物の名を、次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
 - a. イブン=ハズム
 - b. ウマル=ハイヤーム
 - c. フィルドゥシー
 - d. フワーリズミー

4. イラン高原南部に3世紀にたてられた、ササン朝の初代の王の名を、次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。
- a. アルダシール1世 b. シャープール1世
c. ホスロー1世 d. ミトラダテス1世
5. 前4～前3世紀頃に、この都市につくられた大規模な王立研究所の名をしるせ。
6. マドラサで学問を修めた者を何と呼ぶか。次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。
- a. アミール b. ウラマー
c. マワーリー d. ワズィール
7. 円形のこの都を造営したアッバース朝カリフの名をしるせ。
8. この研究機関の名をしるせ。
9. この人物が著し、12世紀にラテン語に翻訳され、中世ヨーロッパの大学において教科書とされた医学書の名をしるせ。
10. このうち、12世紀に活躍し、ムワッヒド朝の法官であり医師でもあった者の名をしるせ。